



大きな地震やウクライナのニュースなど不安な出来事が続き胸の痛む毎日ですが、暑さ寒さも彼岸までの言葉のとおり桜の開花とともに春の陽気が訪れて街には光があふれています。近頃では感染予防から人と触れ合う機会もすっかり減っていますが、握手したり肩を組んだ時、その温もりに驚くほど人の命の確かさを感じたことを思いますと、せめて子供たちには一日も早く安心して触れ合える生活を取り戻してやりたいと願うばかりです。

令和4年度当初予算が市議会で承認され新しい年度が始まりました。新型コロナウイルス感染症の影響から立ち直り、市民のニーズに応えつつ持続的に発展をしていくためには、ポストコロナを見据えた新たな取り組みが必須です。国政・県政の情勢も踏まえ最新の情報収集に努め、最少の経費で最大の効果を発揮するよう市を挙げて強力に推し進めてまいります。「第5次三島市総合計画」の2年目となる今年度は重要施策である「ガーデンシティみしま」「スマートウエルネスみしま」「コミュニティづくり」の3つの柱とともに、国際的な目標であるSDGsも意識して、さらに輝く三島の未来を創造してまいります。

三島市長 豊岡 武士

春の全国交通安全運動 4月6日(水)～4月15日(金)
～ 安全をつなげて広げて 事故ゼロへ ～

このところ感染予防のため啓発活動を十分に行うことができない中で、市内でも歩行者の交通死亡事故が発生するなど心配な状況が続いています。

「春の全国交通安全運動」に合わせて身の回りの安全を見直し、一人一人がゆとりと思いやりの行動を心がけてください。

【運動の重点】

- 子供を始めとする歩行者の安全確保
- 歩行者保護や飲酒運転根絶等の安全運転意識の向上
- 自転車の交通ルール遵守の徹底と安全確保
- 交差点での安全確認

【主な行事】

- 初日一斉 街頭広報 4月6日(水) 7:30～8:00
正しい交通ルールとマナーの実践を促すため、市役所前、自治会主要交差点、通学路で街頭広報・指導を実施します
- 新入学児童の下校指導 4月8日(金) 下校時 11:00
新入学児童の初回の集団下校に、警察署員、交通安全指導員が同行し、下校指導を行います(西小学校)
- 交通事故死ゼロを目指す日 4月11日(月) 7:30～
交通事故死ゼロを目指す運動の周知を、パネルを持って通行車両に呼びかけます(国道1号線奈良橋交差点)
- 二人三脚 高齢者訪問 4月12日(火) 13:30～
交通安全指導員、民生委員、市役所が協力し、高齢者宅を訪問して交通安全を呼びかけます

三島市長 〒411-0035 三島市大宮町 2-14-20
豊岡たけし後援会事務所 TEL 055-976-2160 FAX 055-976-2159
E-mail : toyotake@mail.wbs.ne.jp
ホームページ <http://www.toyooka-takeshi.jp/>

トピックス みしま

◇三ツ谷工業団地 6 区画完売しました

三ツ谷工業団地の残り 1 区画を、県ファルマバレープロジェクトに寄与する医薬品メーカーとして期待される感染症迅速診断キットの最大手企業の一つ (株)タウンズが取得し、予定した 6 区画が完売いたしました。三ツ谷工業団地は民間の土地区画整理事業により 2016 年に造成に着手し、市が企業誘致を推進してきました。2019 年に造成工事が完了し、今回の完売をもって土地区画整理組合が解散する予定です。

現在、市内には大規模な産業用地が不足する一方で、企業の静岡県東部への進出意欲はまだまだ高いことから、引き続き新たな産業用地の確保により雇用と地域経済の安定化に努めてまいります。

◇第 3 次三島市環境基本計画の策定と

2050 年カーボンニュートラルシティの表明

近年、地球温暖化に起因するとされる自然災害の発生、海洋プラスチックごみによる生態系への影響、大量の食品ロスの発生など、様々な環境問題が顕在化しています。

そこで市民・事業者・市の協働と共創により環境への負荷の低減を図り『未来へつなぐ 自然豊かな 快適環境のまち 三島』を実現するため、三島市環境基本条例に基づく「第 3 次三島市環境基本計画」を策定しました。

また 2020 年 10 月に国が 2050 年のカーボンニュートラルを宣言したことを受け、本市においても地方自治体としての責務を果たすべく、環境基本計画に併せて策定した「地球温暖化対策地方公共団体実行計画（区域施策編）」で定めた取り組みを推進し、2050 年度までのカーボンニュートラルシティの実現を目指すことを表明しました。これにより地球温暖化対策に積極的に取り組む市の姿勢を示すとともに、市民や事業者の行動変容を促してまいります。

※カーボンニュートラルとは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量から、森林などによる吸収量を差し引いて、合計を実質的にゼロとすること



三島市「2050 年カーボンニュートラルシティ」表明

近年、地球温暖化が主要な要因とされる気候変動により、平均気温の上昇、台風、大雨等による被害、農作物や生態系への影響等が観測されており、今後、地球温暖化の進行に伴い、豪雨や猛暑のリスクが更に高まることが予測されています。

この問題への対応は、私たち一人ひとり、この星に生きる全ての生きものにとって避けることができない、喫緊の課題です。

2015 年に COP21（国連気候変動枠組条約第 21 回締約国会議）において採択されたパリ協定において、「世界的な平均気温の上昇を産業革命以前と比較して、2℃より十分低く保ち、1.5℃に抑えるよう努力する」という目標が掲げられました。

一方、2018 年に公表された IPCC（国連の気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書では、「気温上昇を 1.5℃に抑えるためには、2050 年までに二酸化炭素実質排出量をゼロにすることが必要」とされています。

三島市は、湧水がつくるせせらぎ、箱根西麓からまちなかに広がる緑、さわやかな空気あふれる、自然豊かな快適に過ごせるまちです。この環境を未来へつないでいくため、2050 年度までのカーボンニュートラルシティ（温室効果ガス排出量実質ゼロのまち）の実現を、市民や事業者の皆さまとともに目指すことを表明します。

令和 4 年 3 月 18 日

三島市長 豊岡 武士